

総合環境研究センター

センター長 朴 恵淑

21 世紀の最大の課題である環境問題に対する世界的な研究の流れは、自然科学中心の研究から、人文社会科学と自然科学との融合による「学際的・総合環境科学研究」が要求されています。人間の尊厳に関する人権や生存権、倫理、法制度の整備、地理情報システム(GIS)構築、環境と開発とのバランスを保つ持続可能な社会形成、環境教育、環境政策、国際環境協力(特に、東アジアの日中韓(北朝鮮を含む)、東南アジア)が多いに問われていることが再認識され、人文学部が研究の中心を担う飛躍への大きなチャンスを迎えたと言っても過言ではありません。

地域圏大学を目指している三重大学は、四日市公害で代表されるような開発(産業)と環境との間に挟まれ、自然破壊や人間の命が奪われるような大変な犠牲を払いながら、40 年かけて快適環境都市(地域)を目指して、さまざまな環境問題に取り組んでいます。

開発(産業)と環境とのバランスの取れた「持続可能な発展」の成功事例を創れる大きな可能性を秘めた三重県の唯一な国立大学としての役割が多いに期待されているのです。地方の国立大学として、地域に貢献しながら地域が必要とするニーズに答えるべく、戦略を練ることが多いに問われています。旧帝大のようなスケール・メリットを得ることがなかなか難しい中、資金調達の問題や、有能な教授陣、即戦力として機能するコンテンツの構築など、大きな課題に直面しています。

しかし、三重大学周辺の東海地域の大手企業や国際関連機関からの協力はもちろんのこと、韓国や中国など、海外からの国際共同研究を視野に入れた戦略が立てられれば、将来のビジョンは明るいものです。特に、東海地域は愛知万博や中部国際空港建設など、大勢の人々を寄せつけるポテンシャルを秘めています。

このような動向を踏まえて、「総合環境研究センター」がシンクタンクとしての役割を果たすことで、大学と企業、自治体との「認識共同体」を組み、コスト・パフォーマンスの高い実績を上げることが可能となると考えられます。

1 「四日市学」プロジェクト

(1) 研究代表者；朴 恵淑

(2) 研究員；荒井茂夫、福田和展、宇都宮陽二郎、中川正、西村智朗、鹿島洋、岩崎恭彦、寺川史朗、森正人

(3) 趣旨； 四日市公害問題を学際的・総合科学的に再評価し、北東アジア及び東南アジアとの国際環境協力のあり方を探る戦略的・実践的プロジェクトである。四日市公害の教訓を活かした、人間学・未来学・環境教育学・アジア学からなる人文社会－自然環境の統合モデルとしての「四日市学」を立ち上げ、文理融合型の総合環境学の確立、環境教育の拠点づくり、環境外交の有効なツールを確立する。

(4) 研究成果；

① 第5回国際環境シンポジウム「四日市学」開催

- ・テーマ；四日市学；人間学・未来学・環境教育学・アジア学
- ・日付；2005. 7. 23（土）13:00-18:00
- ・場所；三重大学講堂小ホール
- ・主催；三重大学（COE・人文学部総合環境研究センター）
- ・参加者（聴衆）；約 350 名

② 国際環境ワークショップ「Eco-移動教室」開催

- ・テーマ；四日市公害問題と環境教育
- ・日付；2005. 7. 22（金）08:00-17:00
- ・巡検；三重大学－塩浜小学校－四日市コンビナート－四日市港ポートビル－四日市環境学習センター三重大学
- ・主催；三重大学（COE・人文学部総合環境研究センター）
- ・参加者（国内外の研究者・三重大学教員・三重大学生・セントヨゼフ女学院中学生・三重県職員・一般人）；約 50 名

③ 三重大学人文学部公開ゼミ

- ・テーマ（その1）；四日市学：四日市公害の教訓と未来環境社会への提言
- ・テーマ（その2）；身近なアジア学：アジアから世界へ発信しよう
- ・日付；（その1）2005. 7/1, 7/8, 7/15 （その2）11/14, 11/21, 11/28
- ・場所；人文学部棟
- ・主催；人文学部地域連携委員会
- ・参加者；一般人 10 人（2回合計）

④ 三重大学人文学部フォーラム in 東紀州 2004 尾鷲市

- ・テーマ；森林環境からみる三重の自然・人・生活
- ・日付；2005. 12. 1
- ・場所；尾鷲市立中央公民館

⑤ 総合科目「四日市公害から学ぶ四日市学」開講

・受講者；約 150 名

⑥ 出版物（著書；1 冊、報告書；2 冊、論文；9 編）

・著書；「四日市学—未来をひらく環境学へ」朴 恵淑・上野達彦・山本真吾・妹尾允史共著、2005 年 7 月発行、風媒社、232p.

・報告書；

「地域環境教育の実態に関する調査報告書」(2005), 朴 恵淑, 三重県との共同研究報告, 77p.

「四日市公害を原点に未来へ・アジアへ」(2005), 第 5 回国際環境シンポジウム・報告書；四日市学, 2005 年 7 月 23 日, 三重大学, 230p.

・論文；

「人間学・未来学・環境教育学・アジア学としての「四日市学」—四日市公害の現代的再評価とアジアの国際環境協力—」(2005), 第 5 回国際環境シンポジウム・報告書；四日市学, 2005 年 7 月 23 日, 三重大学, 26-30.

「21 世紀の水資源は Blue Gold となるのか?!—水環境保全の国際・国内政策・環境教育の側面—Water Resource should be BLUE GOLD in 21th Century?!— Global and Regional Environmental Policy and Environmental Education concerning Conservancy of Water Environment—」(2005), 朴 恵淑, 第 4 回川の日大会, Aug. 18-20, 2005, 韓国公州大学校, 137-143.

「四日市公害問題の教訓と国際環境協力—韓国産業団地における公害問題の実態」(2005), 反差別人権研究みえ第 4 号, 三重県人権問題研究所, 2005.9 月, 41 - 65.

「四日市公害を聴く—四日市公害病認定患者・関係者の証言」(2005), 反差別人権研究みえ第 4 号, 三重県人権問題研究所, 2005.9 月, 67-71.

「Approach Toward Environmental Advanced Region From Yokkaichi Air Pollution Area; [Yokkaichi Studies] Lessons of Yokkaichi Air Pollution and Environmental Education」(2005), Hye-Sook PARK, The Second Japan-Korea Joint Symposium on Limnology ; Environmental Education of Lomnology for the Next Generation, Sept. 16-18, 2005, Osaka Kyoiku University, 28-29.

「YOKKAICHI Studies Toward Environmental Advanced Region From Yokkaichi Air Pollution Area; Lessons of Yokkaichi Air Pollution And Environmental Education」(2005), Hye-Sook PARK, Proceedings of the 12th Tri-University International Joint Seminar and Symposium 2005, Role of Asia in the World, Jiangsu University, Zhenjiang, China, Oct. 6-21, 2005, 80 - 85.

「YOKKAICHI Studies for Promoting Environmental Education and International Environmental Cooperation by Lessons of Yokkaichi Air Pollution」(2005), Hye-Sook PARK, International Forum on Korea, U.S.A. and Japan's Improvement of Air Pollution,

The 3rd Blue Sky Forum, Dec.15, 2005, Seoul, 21-30.

「YOKKAICHI Studies for promoting Environmental Education and International Environmental Cooperation by Lessons of YOKKAICHI Air Pollution」(2006), Hye-Sook PARK, Научный и общественно-публицистический журнал, ВЕСТНИК Хабаровской государственной академии и экономики и права(ハバロフスク経済と法国家アカデミー紀要), 2006年2月号, Khabarovsk, Russia, 71-76.

「地球環境条約の報告審査制度」(2005), 西村智朗, 西井正弘編『地球環境条約』, 有斐閣, 382-405.

「国際環境法の実施をめぐる理論と現実」(2005), 西村智朗, 『社会科学研究』, 東京大学社会科学研究所, 57巻1号.

- ・国内学会での口頭発表; 3件
- ・国際学会での口頭発表; 3件
- ・国際研究会での口頭発表; 3件

2 「北朝鮮の環境問題と日中韓の国際環境協力」プロジェクト

(1) 研究代表者; 朴 恵淑

(2) 研究員; 荒井茂夫、福田和展、西村智朗、鹿島洋、岩崎恭彦、寺川史朗

(3) 趣旨; 北東アジアの火薬庫である北朝鮮を取り巻く韓国、中国北東部(吉林省)、極東ロシア(ハバロフスク)の研究者と共に、大気・水質汚染・森林破壊・エネルギー問題などについて国際共同研究を行い、朝鮮半島統一後の日本の役割に関する政策提言を行う。UNESCOやUNDPとの連携をはかる。

(4) 研究成果;

① 報告書;

「北朝鮮の環境問題」(2005)、朴 恵淑・催 雲植・成 孝玄・李 玉姫 (韓国語)
 「金剛山」(2005)、朴 恵淑・催 雲植・成 孝玄・李 玉姫 (韓国語) .

② 国内学会での口頭発表; 1件

③ 国際研究会での口頭発表; 2件

3 「東南アジア諸国のもみ殻を用いたバイオマス発電の基礎研究」プロジェクト

(1) 研究代表者; 朴 恵淑

(2) 研究員; 荒井茂夫、福田和展、宇都宮陽二郎、中川正、西村智朗、鹿島洋、岩崎恭彦、森正人、安食和宏

(3) 趣旨; 1997年12月の温暖化防止京都会議(COP3)での「京都議定書」の策定、2005年2月の発効により、日本は二酸化炭素量を6%削減する義務が生じている。中部電力は、

東南アジアの稲作から出るもみからの燃焼を利用したバイオマス発電の実験的な取組を行っている。稲作を中心とする東南アジアの籾殻は、バイオマス発電の燃料供給源として十分な価値を有する。東南アジアの農業や環境問題に取り組んでいる研究者が多い人文学部と企業との共同研究の一環として進める。

(4) 研究成果；

① 論文；1編

「マレーシアの籾殻発電に関する基礎研究」(2006), 朴 恵淑・荒井茂夫・宇都宮陽二郎・中川 正・福田和展・鹿嶋 洋・西村智朗・宮岡邦任・上野達彦, 人文論叢, 三重大学人文学部文化学科研究紀要 第23号, 1-28.

② 国際研究会での口頭発表；1件

4 「東アジア・東南アジアの航海・海洋環境・文化の研究」プロジェクト

(1) 研究代表者；荒井茂夫

(2) 研究員；朴恵淑、福田和展

(3) 趣旨；三重、和歌山一帯には特に東アジア、東南アジアの海洋に連なる歴史的文化的痕跡が豊富である。マレーシア及びシンガポール、ブルネイの華僑文化を理解することで、紀伊半島海岸部における海洋・航海文化の伝統を学際的に探り、東南アジアの海洋環境や文化が紀伊半島の海洋文化に与えた影響について考察する。

(4) 研究成果；

① 論文；

「インドネシア華文微型小説と華文文学の方向性」(2006), 荒井茂夫, 人文論叢, 三重大学人文学部文化学科研究紀要 第23号, 37-43.

② 国際研究会での口頭発表；2件

5 「伊勢神宮蔵の世界地理情報に関する基礎的研究」プロジェクト

(1) 研究代表者；宇都宮陽二郎

(2) 研究員；福田和展

(3) 趣旨；江戸時代の製作に係る地球儀の観察・測定とゴアの作成を通じて、伊勢神宮蔵地球儀の製作技術と制作者の世界認識の解明に努める。本邦で製作された地球儀の球面上世界図の大部分は、マテオ・リッチの坤輿萬國全図に表示された地理情報に基づくが、宮城県立図書館蔵世界図やバチカン蔵原図の地理情報を収集し、詳細を明らかとすると共に、本邦製地球儀のそれとの比較を行う。

(4) 研究成果；

① 論文；

「神宮微古館農業館蔵のいわゆる渋川春海作地球儀に関する研究（第1報）」(2006), 宇都宮陽二郎, 人文論叢, 三重大学人文学部文化学科研究紀要 第23号, 29-36.

- ② 国際研究会での口頭発表；1件

6 「大気等の環境汚染に関する総合的長期指標の開発」プロジェクト

(1)研究代表者；宇都宮陽二郎

(2)研究員；朴恵淑

(3)趣旨；日本4大公害地域の一つとして有名な四日市をはじめとする都市域の大気汚染は、現在においても沿道のSO_xやNO_xなどの濃度が依然として改善されていない。最近では、ディーゼル排出ガスやPMなどの微粒子物質が問題となってきた。一方、大気汚染物質は酸性雨の要因となり、酸性雨による関東、瀬戸内沿岸などの森林枯死が報告されている。特に、関東平野西部では土壌や地下水への影響も指摘されており、最新の酸性雨モニタリング結果では本邦の河川、湖沼の酸性化も危惧されている。しかしながら、これらの汚染を総合的に示す指標はなく、大気汚染の総合的かつ中・長期的な評価手法の開発は、大気汚染の動態把握上、重要かつ緊急を要する課題である。本研究では大気汚染測定データ及び関連情報を収集し、長期大気汚染総合指標を開発する。まず、県や市の大気汚染常時観測システムにより観測された四日市と周辺の大気汚染測定値を収集し、短期的な大気汚染総合指標モデルの開発を試みる。次に長期観測データを収集し、中・長期的な大気汚染総合指標を開発し、大気汚染の動態を把握する。

(4)研究成果；

(5)① 論文；

「二酸化窒素の簡易測定法が持つ偶然誤差の範囲」(2006), 長屋祐一・朴 恵淑・山田二久次・中西健一, 人間と環境, Vol.32. No.1, 2-8.

- ② 国際研究会での口頭発表；1件

7 「伊勢茶の栽培・生産に関する環境科学的研究」プロジェクト

(1)研究代表者；宇都宮陽二郎

(2)研究員；朴 恵淑、武笠俊一

(3)趣旨；三重県特産である伊勢茶の栽培地域について、GIS、リモートセンシング等の手法により把握すると共に、茶栽培に関する各種資料を収集し（必要に応じて観測を加え）、当該地域の茶栽培・生産環境の把握を試みる。さらに、静岡やその他の茶栽培地域の環境を調査し、比較・検討を加える。

(4)研究成果；気象データの収集を進めるとともに、県内各地の5万分の1旧版地形図を収集した。一部地域の旧版地形図については、土地利用図を作成し、茶畑の立地分析を加えた。また、茶畑データファイルをもとに、全国における茶畑総面積および、各県の面積割合の経年変化から茶生産基盤に関する三重県の状況を把握した。研究成果を報告集にまとめる作業を行っている。今後、三重県内各地のデータ収集をすすめ、県内の地域特性を明らかにする予定である。